

不採択とされた請願

請願番号	請 願 名 概 要	賛成議員
請 願 第 2 号	加齢性難聴者の補聴器購入に対する公的補助制度の創設を求める請願書 日本の難聴者率は欧米諸国と比べて大差ないが、補聴器の使用率はかなり低い状況であり、その背景には補聴器の価格が高額であることや、公的支援が不十分などがある。補聴器を必要とする加齢性難聴者に対する津市独自の助成制度を創設し、特定健康診査に聴力検査を導入することおよび加齢性難聴者の補聴器購入に対する公的補助制度を創設することを関係機関へ働きかけるよう請願する。 《賛成討論 日本共産党津市議団 滝 勝弘議員》国際アルツハイマー病会議では、高齢者の難聴は日常生活の障害になるだけでなく、認知症発症の危険因子の一つとされており、補聴器の使用により認知症の進行が抑えられることが示されているが、補聴器は高額なため多くの高齢者が購入を躊躇うている。現在、多くの自治体で補聴器購入に対する公的補助制度が創設されており、津市においても創設すべきと考えることから賛成する。 《反対討論 未来開拓 長谷川 植議員》加齢性難聴者にとって、補聴器が生活の質を高めるものであることは理解しているが、日本は急速な高齢化が進んでおり、新たな補助制度を創設することは、医療や介護、子育て支援など、他の喫緊の課題への財源配分を圧迫する可能性がある。難聴の進行を遅らせるための啓発活動や早期発見のための検診の充実など、予防に重点を置く方が長期的に見て社会全体の負担を軽減できる可能性があると考えるところから反対する。 《賛成討論 希望の風 田矢 修介議員》加齢性難聴は根本的な治療が困難と言われており、日常生活での聞こえづらさを補うためには補聴器の使用が有効な手段とされているが、補聴器は高額なため多くの高齢者が購入を躊躇うている。全国市長会における国に対する提言の中でも、補聴器購入に対する公的補助制度の創設について積極的な措置を講じることを求めており、津市においても創設すべきと考えることから賛成する。	滝勝弘、中野裕子、桂三発、田矢修介

みてもみよう 聴いてみよう

本会議や委員会は傍聴することができます。
本会議の傍聴を希望される方は傍聴受付で、また、委員会の傍聴を希望される方は議会事務局窓口で、住所、氏名をご記入の上、傍聴席へ入場していただきます。

- 開会時刻は、午前10時の予定です。
- 本会議は市議会議場、委員会は第1委員会室の予定です。(いずれも市本庁舎議会棟3階)
- 傍聴席の定員は、議場56人、委員会室5人で、先着順に受け付けています。
- 議場傍聴席には車いす用リフトがあり、車いすのまま傍聴することができます。

- 本会議では聴覚障がいまたは音声・言語機能障がいの身体障害者手帳を所持されている方の希望に応じて、手話通訳や要約筆記を行っています。希望される日の7日前までに議会事務局へ申請してください。詳しくは、津市議会ホームページをご覧ください。Eメール(229-3222@city.tsu.lg.jp)またはファクス(229-3337)などで事務局へお問い合わせください。
- 議場では、補聴用受信機を貸し出していますので、必要な方は、傍聴受付にてお申し出ください。



車いす用リフト



要約筆記の様子



補聴用受信機